（別紙1）　　2019年度

1 自己評価及び外部評価結果　　2Fユニット

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0770403566		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「柳内家」		
所在地	福島県いわき市鹿島町御代字柿境25-1		
自己評価作成日	令和2年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様1人ひとりが快適で安心安全にお過ごしできますように心に寄り添ったケアを心がけています。「見る・話す・触れる」等の人間性の特性に働きかけていく事で、全利用者様が生き生きと生活が出来ますようにご支援しています。運営上最も大切な職場環境に力を注ぎ全職員が生き生きのびのびと意見の飛び交う環境を整える事によって「心が健康」でご支援出来る事をもっとうとしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者と職員は、理念をもとに利用者に寄り添い一人ひとりの思いを受け入れ、ここで生活して良かったと思ってもらえるよう取り組んでいる。
日ごろから家族に利用者の状況を知らせ、意見や要望を話してもらい、介護計画に活かし利用者がその人らしく暮らせるようにしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの役割を全職員で理解し理念を掲げ、日々、職員全員の合言葉として実現に力を注いています。着実に取り組みの道しるべとなって来ています。	管理者・職員が話し合い、事業所独自の理念を作成している。朝のミーティングで復唱し意識づけをしている。利用者中心の生活の流れができ、居室にいた方がフロアに出てきてくれたり言葉や笑顔が出るなど、一人ひとりの思いが出せるようになってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者一人一人が地域の一員であるように、自治会への参加、地域行事の参加を心がけて交流の機会を取れるようにしています。事業所も子供ひなんの家に登録と下校の見守りをしています。利用者様同士がとても社交的で現在、楽器演奏教室を開き慰問等が出来たらと奮闘しています。	運営推進会議に参加している隣組長を通して、地域の方に事業所の行事を知らせてもらい参加する方が増えている。市内の大学の留学生を体験学習として受け入れ、介護の仕事や日本の良さを知ってもらえるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門施設として地域に根差せるホーム作りを目指し運営推進会議や自治会を通して発信しています。将来的にはオレンジカフェを設立を計画しています。地域に向けて音楽教室も検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	皆様の協力を得て定期的に開催されています。会議では馴染みの関係を築いていく事で、それぞれの立場の意見が飛び交い率直な意見交換が出来ています。	利用者・地域の方・包括支援センターが参加し、事業所の行事・これから取り組む課題や利用者の状況を報告し、たくさん意見をもらうようにしている。地域の公民館の体操教室を教えてもらい参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との協力関係を深めていく事は最も大切と捉えていますので、積極的に出向いていく事を心がけています。生活保護者も受け入れ保護係との連携も密に取り合えています。	管理者は利用者や事業所の報告や相談に行くときには、必ず職員と一緒に出向き連携をとるようにしている。運営推進会議に行政の方も参加してもらえるよう働きかけている。研修や講習については、FAXで連絡をもらい参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に沿って拘束の無いケアに積極的に取り組んでいます。委員会を中心に職員一人ひとりが再認識できる様にチェックシートを作成しユニットごとにチェックし再確認できる様にしています。3ヶ月に1回研修を行っています。	入居前から、利用者や家族と交流し、信頼関係を作り拘束のないケアに繋げるようにしている。職員は、研修を通して身体拘束をしないよう意識している。言葉の拘束については、気づいた時にはその都度話をし拘束をしないケアをするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止の指針に沿って全職員が認識し定期的に研修を開催し、身体的、精神的苦痛を理解し、拘束の無いケアを実践しています。虐待・不適切ケアチェック表をユニットごとにチェックし確認し合える様にしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に取り込んで理解を深められる様にしています。現入居者様で2名が金銭管理の面で安心サポートの支援を受けていますので学べる機会にもなっています。2階ユニットで2名安心サポートを利用されています、安心サポートとの関わりで学ぶ機会も沢山あります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容や解約等を方法で話し合い理解した上で契約しご入居して頂いています。契約内容等に変更が生じた場合には、改訂内容を納得して頂き同意書を交わし対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「認知症介護は家族と共に」を基本とし入居時からご家族様との関係性を深めていく努力をしています。入居時に本日から家族ですのでお互いに率直な意見を言い合い本人にとって最も望ましい生活を支援しましょうと確約しています。	利用者がその人らしく過ごせるように、思ったことを気兼ねなく言ってもらえる関係づくりを大切にしている。いただいた意見や要望は気づかせてもらったことと考え、感謝の気持ちをもって、ケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に「利用者様が中心に」を合言葉に意見が飛び交っています。毎月、ユニット会議・全体会議を設け方針の確認をしています。	意見や提案について全職員で話し合い決めてもらい、管理者は助言をしても自主的に取り組めるようにしている。音楽療法として、ハンドベル演奏を取り入れ他のグループホームを訪問し、披露したいと計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのライフスタイルに合った雇用を心がけています。方針を全職員で定め自由に意見の飛び交う職場作りに力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所研修・地区研修・社内研修の年間計を立てて実行しています。計画前に研修のアンケート調査を実施し意見を重視した研修計画を立てています。「解らないままにしておかない」が全職員のテーマです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ積極的に参加し同業者との意見交換をしています。MCSネットワークにより、いわき市内のグループホーム協議会の意見交換等をメールでやり取りできるシステムに参加しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より、ご家族様と密接な話し合いをし、ご本人が安心してご入居して頂けますように数多く訪問し馴染みの関係を築いてご入居して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ご入居者様が中心に」をモットうとして、ご家族様ご本人と綿密な話し合いをして関係性を深めていく努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、一人ひとりの現時点での着眼点を職員一同理解し観察、支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の了承を得たうえで、職員と利用者様との垣根をとり生活のパートナーである事を念頭に置いて生活全般をご支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に「グループホーム介護は家族と共に」を理解して頂き共に支え合う体制を整えています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が培ってきた関係を大切にし継続してご支援するようにしています。美容室・医療機関・ボランティア活動・地域交流活動等を関係性を大切に断ち切れない様にご支援を心がけています	友人・知人や教え子が訪問してくれた時は、また来てもらえるよう声かけをしている。医療機関の受診を通して家族と一緒にいる時間を大切に、接点が途切れないようにしている。利用者のこれまでの馴染みの関係を途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を最も大切にご支援していますので、一人ひとりが個性を発揮し生活を営まれています。一緒に生活全般を楽しめるようにご支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されて契約解除になってしまったご家族へグリーフケアまで心がけています。思い出のアルバムの作成やお墓参り等にも継続して出向くようにしています。現在の所、他の施設や自宅に戻ったケースの実績はない。		
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユマニチュードケア技法を導入し、関係性を大切にしていますので、馴染みの関係を築く事で、真にご本人が望む生活を把握でき最大限の努力をしています。	職員は、ユマニチュードの、見る・話す・触れる・立つを理解し、その人の思いを把握し信頼関係を築いている。他の利用者が、職員と利用者との関わりを見て、手を差し伸べてくれるなど、一緒に生活をしていると感じられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の生活歴を深くお聞きし、これまで培ってきた大切な事を重視して関われるようにしています。馴染みの関係が築かれることにより、日常の会話の中から新たな生活歴等の発見もされ職員間で申し送り等で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの個性を大切にし状況に合わせお過ごし頂けますように配慮しています。日内変動等も把握する事で混乱を軽減できる関わりをする様にしています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員間での意見交換を密にしご本人にとり介護計画を作成しています。生活の中心は「ご本人」である事を認識しています。	利用者一人ひとりの思いや意見を反映させ、個別の具体的な介護計画を作成している。その人のライフサイクルに合わせて、楽しくのびのびと過ごせるようにしている。状況の変化に応じて柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回開催している、ユニット会議時に利用者様の現状を話し合い、一人ひとりの月単位での方針目標を定めています。計画作成担当者を中心に全職員の意見を反映し介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて臨機応変に対応できるように努めています。通院介助等も利用者様の状況に応じてご家族様の対応を声掛けしています。必要に応じて共に付き添っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流を密にしていく事で、地域行事への参加や近隣の理美容、コンビニ等への外出の機会を設け交流を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を利用しホームドクターとしての役割を担って頂いていますので、安心できる医療態勢が整えられています。	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。本人の身体状況に合わせて、医師や家族と話し合い、訪問診療に変わる方もいる。受診前に、FAXで受診時報告書を送り、適切な受診ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と密な連携取れ相談助言が気楽に出来る体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常々に相談助言が出来る事によって入院に至らないで済む事が多々あります。些細な事でも相談し助言を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に伴って、入居前より終末期の在り方を話し合いご入居しております。重度化、終末期に入ってきた時は、医師、看護師、家族、事業所にて今後の対応や意思の確認をしています。ご家族様が後悔が無いように随時変更できる様にご家族の気持ちになって話し合いを繰り返しています。	入居時に、重度化・終末期や急変時の対応について、本人・家族と医師と話し合っている。身体状況に応じてその都度家族に知らせ、重度したときは宿泊できるようにしている。職員は、研修を通して適切なケアができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画に入れて再学習を重ねて、救急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を2回/年以上と定め、日中と夜間を想定した訓練をしています。近隣との結びつきを強くし防災時の協力体制を強化している。	消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認を定期的に行っている。区長を通して、地元消防団や近隣の方に訓練に参加してもらっている。突発的に職員連絡網がどれくらいの時間で届くかを計り、迅速に避難できるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人それぞれの誇りやプライバシーを大切に関われるようにしています。心に寄り添うケアを推進しています。	研修を通して関わり方の大切さと、その人を知りその人に合った対応をすることや、信頼関係を築くことで尊重とプライバシーを守るようにしている。利用者同士で相手の誇りを損ねるようなときは、行き過ぎないように見守りをして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様、一人ひとりの思いを大切に「その人らしさ」の追求に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目の前の利用者様がいて、私たちの業務が生まれる事を、常に確認し合っています。一人一人の思いを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容、身だしなみやおしゃれが出来る様に声掛けや気配りをしている。居室に洗面台と鏡が備え付けているので起床時等に一緒に向い整容を行える様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自由食を週1回以上導入し、献立作り・買い物・調理・配膳・下膳等を一緒に楽しめる日をお作りしている。	利用者の好き嫌いを把握し、その人の食べる力に合わせて細かくたりとろみをつけるなどして食べやすくしている。いただいた季節の野菜などを料理して、メニューに一品を加え、職員と一緒に食卓を囲んで楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士が作成したメニューにより業者に依頼して食材を発注している。バランスも考慮しながら一人ひとりの好みに応じて提供出来る事も大切と捉えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に定期訪問して頂き診療や歯科検診をして頂き、口腔ケアの大切さを重視しています。ケア後はチェック表に記載し職員間で確信し合える様にしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレで排泄する事を目標に置き、定時誘導の声掛けし排泄して頂いています。完全失禁の方は夜間は睡眠重視の為にオムツ着用し日中はリハパンにしています。排泄チェック表に記載し排泄間隔の把握に努めています。	入居時、オムツだった方が職員の根気強い、声かけや誘導でリハビリパンツになりトイレで排泄できるようになった方もいる。トイレで排泄できるようになり、オムツが減り家族の負担が軽減され、感謝されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然排便を心がけて、水分補給・乳製品の提供、軽運動等を取り入れています。主治医と看護師と連携を取り緩下剤のコントロールもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴時間は定めていますが、利用者様の思いも大切に自在に入浴が出来る様に努力しています。入浴剤の選択や季節感を楽しめるように菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいます。	日中に限らず夕方や毎日入りたい方にも、その人の希望に合わせて入浴できるようにしている。入居前には、入浴を拒んでいた方に、職員が声かけを工夫したりして、信頼関係ができお風呂を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に日中は活動出来る機会を作り夜間安眠が出来る様に支援しています。一人ひとりの生活のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師と密に連携し効用や副作用も理解し支援しています。状況等を医師看護師に伝えコントロールして頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	１人ひとりの望みや特技をいかすことが出来る様にお誘いし、日常生活全般で一緒に楽しむことを基本にご支援しています。利用者様で音楽教室・園芸活動を開催し楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・買い物を基本とし外出できる機会を設け気分転換を図れるようにしています。行きたい場所等を日常会話からお聞きし実現を心がけ計画しています。地区行事のお祭りへの参加は恒例になっています。	暑さ寒さや陽ざしなど、季節を感じてほしいと思い、外に出る機会を多く持つようにしている。行事で出かけるときは、事前にトイレや車いすが通れるかなどを下見して、安全・安心に外出できるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的には事業所で管理していますが、買い物時に金銭のやり取りが出来る様に見守りながらご支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時からご家族様に了承を得て、要求時にはおつなぎしています。携帯電話を持参しやり取りされている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節ごとに制作物を作成時展示しています。ホールには和室空間もあり冬には炬燵でくつろいだりしています。	利用者が、ソファーやテーブルで、それぞれ好みの場所を見つけ、自由にくつろげるようにしている。和室を改装し、利用者が日光浴や畑作業をするのに出入りができ、地域の方と交流できる喫茶コーナーを作りたいと考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには和室空間やソファーを設置しくつろいでいただいています。利用者様同士が居室で交流が持てる様に職員も一緒に入りご支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室には出来る限り馴染みの物を持ち込んで頂ける様にしています。必要に応じテレビや冷蔵庫を持ってこられている方もいます。	入居後、利用者の身体状況や生活の様子を見ながら、家具やベッドの配置を考え、その人が安全で快適に暮らせるようにしている。衣替えや掃除は、プライバシーに配慮し、利用者と職員が一緒に行い、清潔に整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体は全てバリアフリーであるとともに、各所に手すりを設置しています。床材に衝撃を吸収できる様にクッションを入れています。2階ユニットの和室コーナーが段差がありましたのでスロープを設置して見ました。		